



333 East 47th Street  
New York, NY 10017  
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日:2022年3月10日

プレス担当:

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー(JS)

トーク+(プラス)

オンライントーク

『コンクリートの楽園・沖縄』

Concrete Paradise: Okinawan Brutalist Architecture

3月30日(水) 午後7時00分~8時00分\*米国東部時間



Photography by [@brutal\\_zen](#) / ©Paul Tulett 2022

JSは3月30日(水)、オンライントーク『コンクリートの楽園・沖縄』を開催します。

沖縄諸島に連合軍が上陸したのは1945年。それ以来、米国による沖縄占領を通じてアメリカナイズされたのは、食べ物や言葉などの風俗だけにとどまりません。沖縄の建築も大きく変化しました。第二次世界大戦前の沖縄の伝統的な建物には木材などの自然素材が用いられました。その多くは戦中に失われ、戦後はコンクリート造建物が増加し、今では建物の9割はコンクリート造です。

1972年の沖縄返還から50周年を迎えた本年、トーク+では、戦後沖縄に上陸した建築の新潮流としてのブルータリズムを取り上げます。むき出しのコンクリートに象徴されるブルータリズムは、厳しい気候条件への耐性が強い建築様式ですが、それが季節性の台風の被害が多い沖縄のニーズに合致し隆盛したことは、世界ではあまり知られていません。また、本オンラインセミナーでは建材としてのコンクリートを、再利用の可能性や耐用年数などサステナビリティの観点から検証すると同時に、長期にわたる広範な普及による環境への負担も考察します。

**アジェンダ：** レクチャー、ディスカッション、Q&A 午後7時00分～8時00分（米国東部時間）

**参加費：** 任意料金制（参加には事前登録が必要です）

**登録方法：** [こちら](#)よりご登録ください。

\*本オンラインセミナーはYouTubeにて配信します。事前登録いただいた皆様に、イベント前日に視聴リンクをお送りします。

\*オンラインセミナー中は、YouTubeを通してスピーカー・モデレーターにご質問いただけます。

\*本オンラインセミナーは、英語で行います。

## スピーカー

### 【ポール・タレット氏】

日本のブルータリスト建築に焦点を当て撮り続けている写真作家。ブルータリスト建築へのアプローチは、大学院在学中に都市計画と環境を研究するなかで始まる。以来、自身のInstagram (@brutal\_zen) を通じ、英国に生まれ日本で洗練されながら往年の誤解と偏見にさらされているこの建築スタイルへの社会の理解を深め、文化遺産としての保存の取り組みが国際

的に強化されるよう働きかけている。また沖縄でのコンクリート使用の歴史と発展、そして建材として問題とされるサステナビリティについても深い関心を持つ。

### 【マイケル・クボ氏】

建築史・建築理論の助教兼プログラムコーディネーターとして、ヒューストン大学のジェラルド D.ハインズ建築デザイン大学に勤務。20 世紀の建築とアーバニズムの歴史をめぐる共著作物は数多く、代表作は『Imagining the Modern: Architecture and Urbanism of the Pittsburgh Renaissance (現代を想像する：ピッツバーグ・ルネッサンスの建築とアーバニズム)』

(2019)、『Heroic: Concrete Architecture and the New Boston (ヒロイック：コンクリート建築とニューボストン)』(2015)、『OfficeUS Atlas (オフィス US・アトラス)』

(2015)、そして出版準備中の『Futures of the Architectural Exhibition (建築展の未来)』(2022) など。

### モデレーター

#### 【ティファニー・ランバート氏】

キュレーター、編集者、教育者、ライターと多くの顔を持つ。コロンビア大学建築学科大学院にてアシスタント・ギャラリー・ディレクター、クーパー・ヒューイット・スミスソニアン国立デザイン博物館にてアシスタント・キュレーター、そしてピンナップ・マガジンにて編集長を歴任。執筆記事は「The Architectural Review」「Artsy」「Cultured」「Disegno」

「Domus」「Finnish Architectural Review」「Metropolis」「Surface」「TANK」「ニューヨーク・タイムズ」など、広く国際的なメディアに掲載されている。

日本人デザイナーの柳宗理についての研究は、グラハム・ファンデーションによる助成を得ており、ファイドン社より近日出版予定の書籍に掲載される。また、「Bloomsbury's Design Encyclopedia」(2015年)への寄稿や、プリンストン・アーキテクチュラル・プレス出版の「Beautiful Users」(2014年)の共著も行っている。現在、ロード・アイランド・スクール・オブ・デザインとプラット・インスティテュートで教鞭をとっており、JSではギャラリー部キ

ュレーターを務める。スクール・オブ・ヴィジュアル・アートにて美術修士、ミシガン大学で美術・デザインと神経科学の専攻、アジア言語文化の副専攻で学士を取得。

**取材お申し込み**：取材のお申し込みは、プレス担当：マリカ（日本語）／ロッドマン（英語）まで Eメールで([Emarica@japansociety.org](mailto:Emarica@japansociety.org)/ [ARodman@japansociety.org](mailto:ARodman@japansociety.org))ご連絡下さい。

This program, presented as part of the *U.S.-Japan Dialogue: Leveraging S&T toward Sustainability and Resiliency* program, is made possible by a generous grant from the Toshiba International Foundation, and is co-organized by the [Okinawa Institute of Science and Technology Foundation \(OIST Foundation\)](#). Additional support is generously provided by an award from the National Endowment for the Arts.

**ジャパン・ソサエティートーク+（プラス）プログラムは、MUFG (Mitsubishi UFJ Financial Group)及び ORIX Corporation USA のスポンサーにて開催しております。また、匿名ドナー、the Sandy Heck Lecture Fund 及び, Helen and Kenneth A. Cowin 氏にも多大なご支援・ご協力をいただいております。**

### **JSについて：**

JSは1907年の創立以来、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。JSでは文化的な「きずな（絆）」を深めるために、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は [www.japansociety.org](http://www.japansociety.org) をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願

い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

**公式 SNS アカウント：**

Facebook：[facebook.com/japansociety](https://facebook.com/japansociety)

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語）／[@js\\_desu](https://twitter.com/js_desu)（日本語）

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

###